

花ちゃん、オー君、モンタ博士のわくわくドキドキ冒険記4

国立市立国立第七小学校

平成28年5月27日 NO.17 (317)



花ちゃん 「あれあえ？校長室でモンタ博士がなにかしていますね。」

オー君 「モンタ博士！何をやっているのですか。」

モンタ博士 「げつようび（5月30日）のぜんこうちょうかいでのお話の道具を作っているのさ。」

オー君 「お話のどうぐ・・・？どうするんだろうな・・・？。」

花ちゃん 「みどりいろかみの緑色の紙のようなものは、はっぱみたいですね。」

オー君 「まるい緑は『つつ』のようですね。」

モンタ博士 「なんのお話かというね、オトシブミという虫のお話さ。とってもちいさな虫がすっごくおおきなしごとをするというお話さ。」

オー君 「とってもちいさな虫というけど、どのくらいの大きさなんですか。」

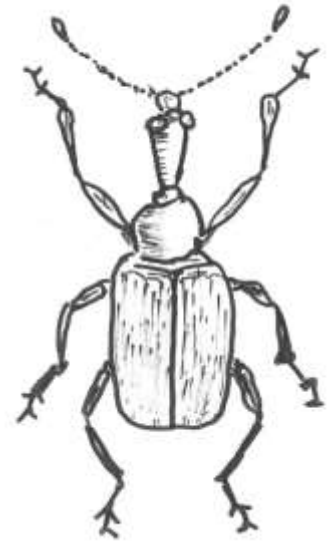
モンタ博士 「そうだね。えんだまはんぶんはんぶんはんぶんセンチメートルちいさな虫なんだ。それがおどろくようなおおきなしごとをするんだよ。」

オー君 「おおきなしごとって、どういうこと。」

モンタ博士 「ちいさな虫がおおきなはっぱを相手に、そのはっぱにあまごうを産むんだよ。」

オー君 「たまごを産むって、モンシロチョウがキャベツに卵を産むようにするの。」

モンタ博士「モンシロチョウとはちょっとちがうんだけど、
まあ、その話はゆっくりとするけど、小さな
虫でもえらいことをするんだよ。例えば、
みんなをオトシブミとすると、体育館くらい
の大きさの葉っぱを相手に、自分の子供の
ためにすごいことをするんだよ。」



オトシブミ

花ちゃん「あのう……。オトシブミって、『落とし文』
の事ですか。」

モンタ博士「え！落とし文の事を知ってるの。さすが、
花ちゃん。物知りだね。」

花ちゃん「昔の人が好きな人にお手紙を書いて、その人にお手紙を渡そうとするときに、
はずかしいから他の人にばれないように、そっとその人の通る道にわざと落
としておくということだったと思いますが……。」

モンタ博士「ピンポン。そのとおり。今はメールで『好きです！愛してます！』と送っ
たり、ラブレターを書いたり、簡単な自分の気持ちを伝えるけど、昔の人は、
いろいろと苦労したんだね。」

オー君「つまりどういうことなのですか。」

モンタ博士「つまりね、昔のお手紙というのは巻物みたいだったのさ。そして、その形が
オトシブミという虫の作る『お弁当箱つきおうち』や『ゆりかご』に似てい
るというわけなんだよ。」

オー君「お弁当箱つきおうち？って、どういうことなのかな。」

花ちゃん「ゆりかご？って、どういうことなんですか。」

モンタ博士「そのお話は、今度の月曜日までお楽しみにしていてね。もし、どうしても知
りたいなという人は、ネットや図鑑などで自分で調べておいてもいいね。
まあ、ともかく準備を始めよう。あ！そうだ。モンタ博士がオトシブミにな
っちゃうっていうのもおもしろいかもな……。そうだ！お面を作ろう！」

訂正とおわび……。前号の『国立てくてく4』のサイガメはサシガメのまちがいでした。